

スギ花粉の飛散時期と花粉症

日本医科大学耳鼻咽喉科教授

大久保 公 裕

(聞き手 池田志孝)

『2013年版鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症—』(ライフサイエンス)の図5の主な花粉症原因植物の花粉捕集期間(開花時期)にスギ花粉は関東・東北でも長期間大量にみられ、開花時期が長期化している傾向にあり、年によっては11月を中心に、10~12月にかけてわずかなスギ花粉が観測されるとありますが、北陸でもそうなのでしょうか。また、なぜなのか、スギの種類などによっても違うのか、少ない花粉量は臨床的に問題となる量なのかご教示ください。

<富山県開業医>

池田 大久保先生、『2013年版鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症—』をご覧になった先生からの質問で、主な花粉症原因植物の花粉捕集期間、要するに開花時期ですが、スギ花粉は関東、東北で長期化および大量化がみられるということでしょうか。これはどういった内容なのでしょう。

大久保 以前は2~4月、そして5月の連休までというスギ、ヒノキの花粉があったのですが、特に東北ではヒノキがありませんので、スギ花粉のみになります。少し寒いので、2

月の終わりぐらいから5月で、以前よりもその期間が多少延びているようです。これは花粉が多量につくられているということだったり、温暖化の影響があったりして、その期間が長期化することがいわれています。

池田 長期化もそうですし、量的にも多いというデータということですが、例えば10年前に比べて、2014年とか2013年は多いのでしょうか。

大久保 実際には年度によって、多い年、少ない年が交互にやってきたりするのはです。今のポイントは30年以上の成木という、花粉をたくさん飛ばす

木が植物面積全体の70%を占めていることです。以前に比べて成木の割合が増えたので、トータルの花粉量として多くなってきた。このうち、30%のまだ成木に達していない木がすべて成木になってきたときに最大の飛散を迎えるので、徐々に増えてきているということがいえると思います。

池田 逆に言いますと、開花時期の長さは温暖化とかの影響がありますけれども、絶対量自体は成木の数だということですね。

大久保 数だと思います。面積自体は、もう植林をしていませんので増えていませんから、実質的にその木一つが持つ花粉をつくる能力が向上してきているということだと思います。

池田 すべての木が成木になるまでは飛散量はどんどん増え続けると考えられるわけですね。

大久保 はい。

池田 成木はどのくらいの期間、最大量の花粉を生産し続けられるのでしょうか。

大久保 残りの30%があと20年でほぼ全部が成木になると思います。その後、成木になった木は30年からおよそ50~60年ぐらいまでは最大飛散を継続させようだろうと予想されています。ということは、今からおよそ50~60年はまだ最大飛散を続けていく可能性があるだろうと思っています。

池田 これは深刻な状態ですね。60

年も続くとなるとたいへんなことですね。

大久保 はい。

池田 質問では、長期化もあるし、年によっては11月を中心に、10~12月、秋から冬にかけてもスギ花粉が少し観測されるようですが、これはこういった現象なのでしょう。

大久保 スギ花粉は夏の雨が少なくて暑い日、そういった気象条件によって育生されるといわれています。つまり、暑い夏を迎えると花粉がたくさんつくられます。その後、冬眠に入ります。それが10月の終わりとか11月と考えられています。この冬眠に入る前に、たくさんつくられた花粉がこぼれて飛散してしまう現象が起きている。これが秋のスギ花粉症です。実際に北陸でも10~12月ということで、冬眠に入る前にたくさんつくられた花粉がこぼれることがあると思います。もしスギ花粉症の人が10月あたりに症状が出ていれば、こぼれた花粉によって症状が出ていると考えてもいいのかもしれない。

池田 多分この時期の秋から冬にかけての花粉量は少ないと思われるのですが、実際に臨床的にかなりの患者さんが症状を呈するようなことになるのでしょうか。

大久保 全員の患者さんではないと思いますが、およそ1/3から半分ぐらいの患者さんは10月、11月、12

月にそういった鼻の症状、目の症状を感じるといわれています。ただ、症状は出るのですけれども、その症状をよく聞いてみると、「お薬が必要ですか」と聞くと、それほどではないとお話しされますので、春の飛散する量に比べると少ないのだらうと考えています。

池田 全例のスギ花粉症の患者さんが重症になるわけではないのだけれども、さらに過敏な方は症状を呈してくるのですね。

大久保 そうですね。そういった量の花粉が飛んでしまっているのだらうと思っています。

池田 春先ですとこの原因はスギ花粉、初夏になってきますと今度はヒノキとかほかの話になるのですけれども、秋から冬にかけての花粉症というのは認知されているものなのでしょうか。

大久保 徐々にですけれども認知はされてきています。ただ、一般の方たちにはまだまだ情報が行き届いていませんので、秋にスギ花粉症の方に症状が出ると、風邪かなと考えられるかもしれないけれども、実際にはスギ花粉症の可能性があると考えていいのだと思います。

池田 この場合の診断ですが、通常のアレルギー検査で行われるのでしょうか。

大久保 このとき、鼻の粘膜が腫脹していたり、鼻水が出ていたり、その鼻水が黄色くなくて、水っぱなだった

りした場合（水性鼻汁）で、その鼻汁の中の好酸球が陽性であれば、やはり何らかのアレルギー反応が起こっていると考えます。鼻汁好酸球検査、あるいは鼻鏡よっての診察、そして患者さんが花粉症を持っているかどうかをみていただくと、秋の花粉症でも診断できるのではないかと思います。

池田 そういう面からすると、やはり耳鼻科の専門の先生に診断を依頼したほうがはっきりするということですね。

大久保 やはり鼻の中を見るとか、検査をして、しかも春であれば、どの先生もスギ花粉症と診断できると思いますけれども、秋の場合はちょっと特殊ですので、ぜひ耳鼻科で検査していただければ、確定診断になるかと思います。

池田 もう一つ、関東、東北の話があって、北陸でもそうなのでしょうかという質問なのですが、先ほどのお話で東北ではヒノキはないということですね。

大久保 ヒノキは植えられていないのです。植林されていない。ですから、東北はほとんどがスギ花粉による症状だと考えていいと思うのです。

池田 北陸もヒノキはほとんどないと考えてよろしいですか。

大久保 少しあります。

池田 逆に言いますと、秋口から冬にかけてスギ花粉によるような症状が

考えられたら、それはヒノキではなくてスギだろうという話になるわけですね。

大久保 そうですね。

池田 もう一つの質問ですけれども、スギの種類によって臨床症状が違うのかという質問なのですけれども、こういうことはありうるのでしょうか。

大久保 スギの種類、もちろん東北に植えられている杉と、東京近辺、関東で植えられている杉の木は違うのですけれども、その違いは、同じニホンスギで、あるいは生育した場所によって、Cry j1、Cry j2、あるいはCry j3というメジャーアレルゲン、主要抗原の量が多少違うにしても、同じスギ花粉、ニホンスギによる花粉症と考えるといいと思います。種類によっての違いというのは、ごく少ないのだらうと思います。

池田 あまりその辺は気にしなくて、いわゆるニホンスギのアレルギーということで。

大久保 気にしなくて大丈夫だと思います。

池田 臨床症状もそんなに変わらないということでしょうか。

大久保 臨床症状も同じと考えてよいと思います。

池田 メジャーアレルゲンのお話が出たのですけれども、最近、舌下免疫療法という治療法が開発されたとうかがっているのですけれども、免疫療法

に使われるアレルゲンの中にメジャーアレルゲンが含まれているのでしょうか。

大久保 含まれています。

池田 これはどういったアレルゲンなのでしょうか。

大久保 スギをエタノール抽出して、その後、それを抽出しているのですけれども、これにはスギの主要抗原であるCry j1の量が規定されています。それにはもちろんCry j2も含まれるのですけれども、おおよそCry j1という1番目のアレルゲンを規定すれば標準化ができるだろうと考えられて、今、Cry j1、Cry j2、そういったものを両方含むようなアレルゲンを舌下免疫療法の治療薬として治療しているということです。

池田 こういったアレルゲンはスギの花粉から直接抽出して、それを薬として使われているのですね。

大久保 そうです。

池田 人工的につくるとかはされていないのですか。

大久保 リコンビナント抗原として研究は行われています。

池田 春先から夏、秋から冬、ほぼ一年中、スギ花粉に影響を受けている方は舌下免疫療法を受けると非常にいいのですね。

大久保 そういった方にはぜひ免疫療法を試していただけるとよいと思います。

池田 今、舌下免疫療法の保険等の状態はどうなっているのでしょうか。

大久保 一般的な保険で3割負担で、およそ1カ月、だいたい1,000円ちょっとぐらいで受けられると思いますので、ぜひ試していただければと思います。

池田 時間的にはどのくらいでしょうか。

大久保 2週間で増量期、その後は維持量をずっと行うのですけれども、毎日、それで2年間やっていただきたいというのがこちらのおすすめです。2年間、毎日続けられるか、そこら辺が少し問題になってくると思いますが。

池田 どうもありがとうございました。